

コブシメ (コウイカ目、コウイカ科) の甲の和歌山県沿岸への 4 例目の漂着

Fourth record of shell of *Sepia* (*Sepia*) *latimanus* (Sepioida, Sepiidae)

drifted ashore on the seacoasts in Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

Shin Kubota

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center,

Kyoto University

和歌山県沿岸においては、奄美大島以南の南西諸島に生息するコブシメ *Sepia* (*Sepia*) *latimanus* Quay and Gaimard, 1832 の甲が合計 3 個、これまで白浜町 (1 個) と串本町 (2 個) に漂着した記録が本誌および「和歌山県貝類目録 I 補遺」になされている (佐々木, 1994; 前岩, 2002; Okutani, 2004)。今回、2004 年 4 月 29 日に、白浜町瀬戸漁港の最奥部の船揚場付近に流れ着いたコブシメの甲が 1 個、流れ藻となったホンダワラ類の間に、氷山のように前端のごく一部のみを海表面から突き出して、それ以外の部分を海中に海表面から直角に沈めた状態で漂っていたのを発見した。これは、和歌山県下 4 例目のコブシメの甲の漂着記録となったので報告する。

以下に計測値を記したように、本標本は、甲長を推定値に直してもこれまでの記録と比較して県下では最小の甲である (表 1)。甲の棘を含む後端部が欠如した甲長は 253mm (破損しない完品の場合の推定甲長は約 30 cm)、最大幅 125mm で、採取直後の重量は 345 g であった (図 1)。

表 1. 和歌山県沿岸に漂着したコブシメの甲のサイズ

標本	甲長(cm)	幅(cm)	採集場所	文献
1	50*		田尻の浜 (白浜町)	佐々木, 1994
2	40*	14	潮岬 (串本町)	前岩, 2002
3	46	16	潮岬 (串本町)	前岩, 2002
4	30*	12.5	瀬戸漁港 (白浜町)	本報告

*: 破損部を入れた推定値

海から網で掬ってひき上げた本標本を手にとるとずっしりと重かったので、研究室内で自然乾燥させ、重量がどれだけ日ごとに減少するのか測定した。その結果、毎日、重量は徐々に減少していった。採取後の翌日には 25 g 減少し、翌々日には初期の重量より 35 g 減少した。3 日目には 275 g、4 日目には 265 g、5 日目は 255 g、6 日目には 95 g 減って 250 g となった。食塩の特徴的な立方形の結晶は甲のどちら側の表面にも析出しなかった。

この甲の柔らかい腹面はかなり削れて平らになり、所々は凹んでいた。また、発見時に腹面にはひびが幾つか入っていることから、やがては部分的にはがれるか、いくつかの断片に割れてばらばらになると推察される。運良くこのままの状態海中を漂った場合には、海水をさらに吸って自重で海底に沈下するかもしれない。

紀伊半島西岸では、まれに断片になったコブシメの甲が打ち上がることを前岩（私信）は観察している。しかし、瀬戸臨海実験所周辺の番所崎や北浜および南浜にはこれまで数十年間余りも甲が漂着した記録はない（樫山、田名瀬、私信）。和歌山県下でのコブシメの甲の断片の漂着記録はまだ正式にはなされていないものの、海底に沈まない一部の甲が漂着することにも今後は留意することが必要である。

ところで 10 年前に慶良間列島で筆者が採集したコブシメの漂着した甲は本標本よりずっと大きく（甲長 44cm、最大幅 14.5cm）、よく乾燥しており 430 g の重量であった。これに比べて、小形の本標本が手に取とってもずっしりと重く感じた理由としては、上記の測定結果からみて水分（海水）が甲の緻密な空間などにトラップされていたからであろう。なお、本標本を採取時に強くふっても水がどこかにたまった音はしなかったことを付記しておく。なお、滝（1973）によると、コブシメの甲は神奈川県三浦市以西の海岸に漂着すると記されてある。

謝辞

コブシメの漂着に関する貴重な情報をお知らせ下さった前岩 崇・樫山嘉郎・田名瀬英朋の諸氏に深謝します。

引用文献

- 前岩 崇. 2002. コブシメの甲羅を潮岬で. 本覺寺杼貝, (37): 63.
- Okutani, T. 2004. Supplement to A Catalogue of Molluscs of Wakayama Prefecture, The Province of Kii. I Bivalvia, Scaphopoda and Cephalopoda. p.3, Pl.I, 7. in Publ. Seto Mar. Biol. Lab., Special Publ. Ser. VII. 53pp., 8 Pls. + i-iii.
- 佐々木賢太郎. 1994. 本覺寺杼貝, (13): 23.
- 滝 巖. 1973. コブシメ. p.312. in 新日本動物図鑑[中](4 版), 北隆館, 東京.

〒649-2211

和歌山県西牟婁郡白浜町臨海 459

京都大学フィールド科学教育研究センター (FSERC)

基礎海洋生物学部門 海域ステーション 瀬戸臨海実験所 (SMBL)

久保田 信 (SK)

email: shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

Fax: 0739-42-4518 (あるいは 0739-42-4520)

Tel: 0739-42-3515 (代表)

0739-42-4630 <直通>ツ・ツ・の発信音後, 52 を押す

SMBL: <http://www.seto.kais.kyoto-u.ac.jp>

SK: <http://www.seto.kais.kyoto-u.ac.jp/shinkubo/index.html>

FSERC: <http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/>

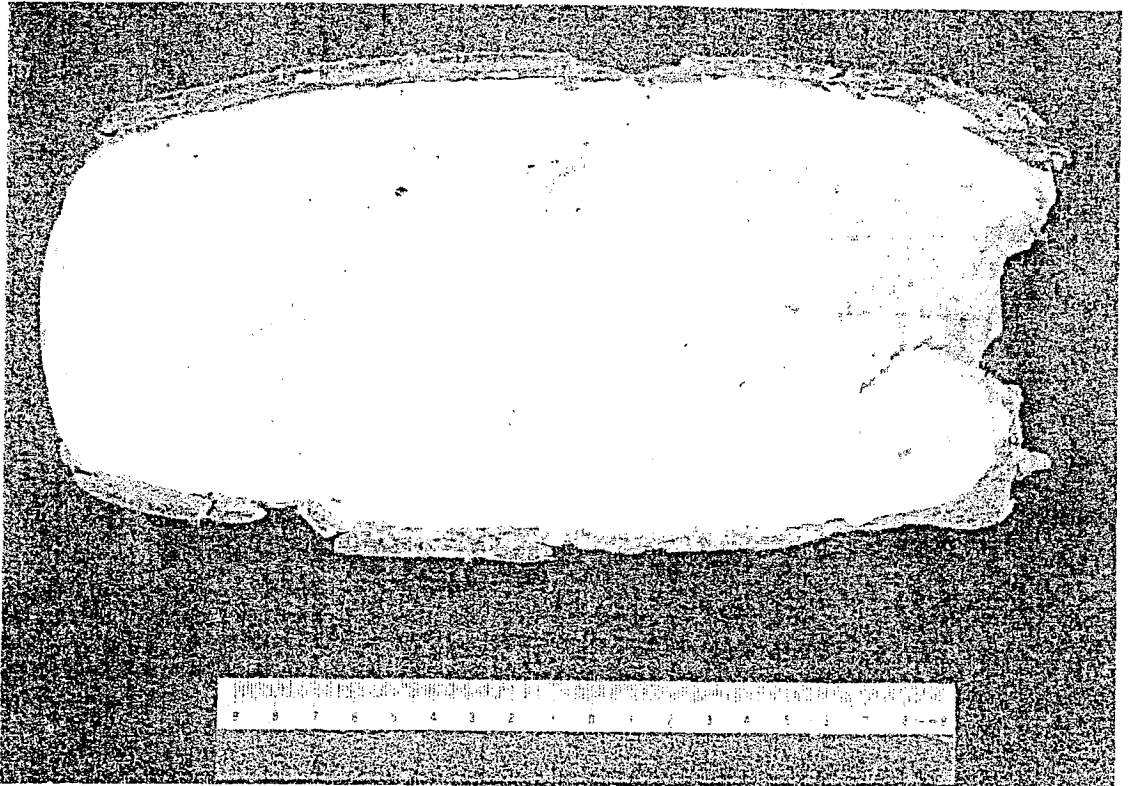


図1 和歌山県白浜町瀬戸漁港の海岸へ漂着したコブシメの甲。

Fig. 1. A shell of *Sepia* (*Sepia*) *latimanus* (Sepioida, Sepiidae) drifted ashore in the Seto fishing harbour at Shirahama Town in Wakayama Prefecture, Japan.